

・解体工事施工技士

- (1) 解体工事を適切に施工管理するため、解体工事施工技士 1 名以上が現場に常駐すること。
- (2) 「解体工事施工技士資格者証」を現場で確認する場合があるため、常に携帯しておくこと。

・産業廃棄物広域認定制度

産業廃棄物広域認定制度により廃棄物を処理する場合は、事前に監督職員と協議すること。

・提出図書等

(1) 提出書類

提出書類	提出時期	部数	備考
・ 施工数量調査報告書	着工前	1 部	施工実績等
・ アスベスト含有建材調査結果報告書	速やかに	1 部	
・ アスベスト粉じん濃度測定報告書(速報)	測定の都度速やかに	1 部	
・ アスベスト除去業者の技術証明	アスベスト除去作業着手前	1 部	
・ 特殊な建設副産物調査結果報告書	速やかに	1 部	
・ フォン類を使用している設備器機の有無の報告書	速やかに	1 部	
・ フォン類の引取証明書(写し)	速やかに	1 部	
・ 各種調査・分析結果報告書	速やかに	1 部	
・			

(2) 完成時の提出図書

提出図書等	部数	備考
完成写真（改修工事の場合は着工前を左、完成写真を右に入れる）	1 部	
工事写真	1 部	
実施工程表	1 部	
施工計画書（工事期間中に監督職員の承諾を受けたものを取りまとめたもの）	1 部	
工事関係資料 ※施工者連絡先一覧表 ・ 打合記録簿(指摘事項及び協議記録等) ・ 施工管理記録 ・ 発生材引渡し調書 ・ 設備切断位置報告書(切断した設備の種類及び位置等を記録したもの) ・ 残置杭報告書(残置杭の種別、杭径、位置及び頂部高さ等を記録したもの) ・ アスベスト粉じん濃度測定報告書(とりまとめたもの) ・ 埋設物報告書(文化財その他) ・	1 部	

その他監督職員が指示する書類 ※現場説明書 ・	1 部	
-------------------------------	-----	--

(3) その他

- (ア) 電子納品は、「青森県営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン」による。
- (イ) 提出図書等は、透明コンテナ（D540\*W378、蓋付き、容量 40～50ℓ 程度）に納めて納入すること。また、外装に工事番号、工事名及び書類名を記入すること。
- (ウ) 貸与された CAD データは本工事における施工図及び竣工図の作成のため以外に使用しないこと。
- (エ) 毎月末日までに月間の工事報告書を提出すること。

3. 解体施工

- ・ PCB 含有シリング材の撤去方法

※「標準施工要領書(日本シリング工事業協同組合連合会/日本シリング材工業会)」による。

・

(撤去範囲 ※図示 〃 )

4. その他

- ・ 建設副産物の処理

とりこわしにより発生する建設副産物は、以下の施設での受入れとして積算している。

- ・ 特定建設資材廃棄物

名称	施設の名称	施設の所在地	備考
コンクリート塊			
アスファルト・コンクリート塊			
建設発生木材			

- ・ 最終処分する建設廃棄物

名称	施設の名称	施設の所在地	備考

- ・ 処理に注意を要する建設廃棄物

名称	施設の名称	施設の所在地	備考
CCA 処理木材			
ひ素・カドミウム含有石膏ボード			
石膏ボードの処理			

・特別管理産業廃棄物

名称	施設の名称	施設の所在地	備考
廃油			
廃酸			
廃アルカリ			
ダイキシン含有廃棄物			

・アスベスト含有建材

名称	施設の名称	施設の所在地	備考

・特殊な建築副産物

名称	施設の名称	施設の所在地	備考(対象機器等)